

# 「薬物・ネット・ゲーム依存症とは」 青森・京都・千葉

保護者や教育関係者、行政関係者、支援者、地域住民に依存症の背景や仕組み、予防や支援の方法についての正しい理解を深めてもらい、自分の問題として受け止めてもらうとともに、参加者を通じ、児童や地域社会に依存症に対する正しい理解をひろげる。

## 事業企画 検討委員会

大谷良光	ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会代表
小林桜児	神奈川県立精神医療センター 専門医療部長
小林恒司	飯塚病院 精神保健指定医
高橋洋平	弁護士、NPO法人アパリ嘱託研究員、
田中秀泰	一般社団法人 相模原ダルク代表理事
田中弓子	薬物乱用防止江東地区協議会 保護司
今 一雄	青森家族会 代表
加藤武士	木津川ダルク 代表
近藤京子	ASK Be編集者
黒川奈菜子	千葉菜の花家族会代表
松井由美	NPO法人 薬家連 理事
川上文子	NPO法人 薬家連 副理事長

## 事業の概要

- ①「薬物依存症とは」「ネット・ゲーム依存症とは」というテーマで医療従事者・研究者の講演
- ②ネット・ゲーム依存当事者又は家族、薬物依存症当事者と家族の体験談の講演
- ③トークセッション
- ④アンケートで講演前と後の意識の変容を調査

☆対象者  
保護者・教育関係者・行政関係者  
・支援者・地域住民

☆実施地域  
青森・京都・千葉

## POINT1

### 依存症問題の専門家が登壇

ネット・ゲーム依存問題では、中学校の教諭や研究者・専門家が、薬物依存については第一線で支援や治療にかかわっている専門家が登壇し、依存の実態や対応策を提供。

## POINT2

### 依存症に苦しんできた当事者や家族が登壇

ネット・ゲーム依存や薬物依存の当事者・家族が、自らの苦しんできた体験を語り、回復の一步を踏み出すために周りや社会に何を求めたいかを発信。

## POINT3

### トークセッションで、双方向型の意見交換

会場の声も取り上げ、地域の状況を引き出し、地域の予防教育資源である教育者、保護者、当事者等の情報交換ができ、今後の連携への一助に。

## 取り組み内容

開催地の県・府・市自治体と教育委員会から後援を受け、地元家族会やダルクの協力で直接足を運び、会場近隣の高校の教諭と生徒(保護者)へのチラシ配布を行うなど、下表のように、33団体200人以上の多くの方の協力を得た。

協力内容	青森	京都	千葉
後援団体	6団体	11団体	4団体
広告等協力団体	1社	4社	2社
チラシ配布依頼先	市立19中学校等	17中学校、2教員組合等	135中学校等
準備協力団体	地元家族会・ダルク	地元家族会・ダルク	地元家族会・ダルク
チラシ枚数	8000枚	8000枚	10000枚



## 事業のねらいに対する成果

- 所属のわかった参加者263名の内 アディクション団体・回復支援施設・当事者家族を除く参加者は58.%(右図) 青森は76%を超え、知る機会の少ない人が数多く参加。

### ○ アンケート回答者 190名

- ・「こういう講演会に参加したことない方」77名(40.5%) 青森では42名(71.1%)

- ・「大変参考になった」182名(96.8%)、青森は全員(100%)

- ・受講前と受講後で、理解が深まったもの

1位:「使用障害や依存症はどういうものか」

「よくわかった」13.8%→50.0% **+36.2%**

「よく」「大体」70.4%→97.8% **+27.4%**

2位:「使用障害や依存症の自助グループについて」

「よくわかった」「大体」62.4%→94.7% **+32.3%**、青森では30%→91% **+61%**

3・4位:「やめられなくなるのは本人の性格や意思の問題だと思わない」は

ネット・ゲームは 46%→65.1% **+19%**、薬物は 58.9%→76.9% **+18%**

と理解の深まりがあり、「大変勉強になったこのような研修をまた是非お願いしたい」「参加して本当に良かった」「家族の方の話に心打たれた」「養護環境に苦しんでいる児童生徒は少なくない。先生の話は心から納得できた」「孤立を防ぐことの大切さを知ることができた」「データと共に最新情報が知れてよかった」「必要なのは、依存症の相談機関や医療機関。地域社会の理解が必要」「体験談が大変勉強になった」「改めて予防教育の重要性を感じた」等数多くの声が。

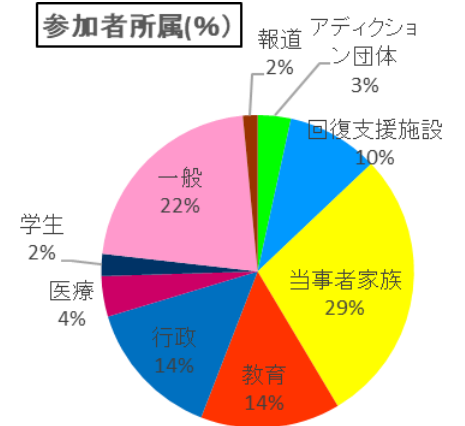
- トークセッションでは、準備の段階での協力者も加え、会場と双方向型の意見交換が行われ、地域の予防教育資源である教育者、保護者、当事者、支援者等の情報交換ができ、今後の連携への一助となった。

- HPに多くのアクセスがあり、動画「ADDICTION」は15万回再生し予防教育資源の拡散になる。

## 課題と今後の展望

本事業の実施結果から、依存症問題について学ぶ機会の少ない地域での教室実施の大切さを実感。今後やっかれんとし、普及啓発が進んでいない地域をより重点に、特に教育関係者(養護教員・スクールカウンセラー等)と保護者を重視して取り組んでいきたい。そして実施に当たっては、啓蒙と対策を全部行うのは無理があるので、啓蒙に重点を置きながら、個々の不安や問題を抱えた参加者に対しては、事前に地域やネットの情報を収集し、問い合わせ先(相談窓口)等信頼できる情報を伝えていくことや、今後の相談できる場としてやっかれんがコーディネーターできる努力をしていくことが必要。

参加者所属(%)



本事業の問い合わせ先  
東京都足立区竹ノ塚5-18-9-207  
NPO法人

全国薬物依存症者家族会連合会

電話: 03-5856-4824

[yakkaren@ck9.so-net.ne.jp](mailto:yakkaren@ck9.so-net.ne.jp)

<http://www.yakkaren.com/>

## 事業のねらい

“ダメ。ゼッタイ。”の視点だけの予防教育だけでは、薬物に手を出してしまった若者やその家族を地域から孤立させ、医療につながる道を閉ざしかねず、地域社会の回復力を減弱させていきます。また、ネット依存やゲーム依存の広がりや大きさは大きく、保護者は大きな不安を抱えています。

薬物依存とネット・ゲーム依存をテーマに3つの自治体で「依存症予防教室」を開催し、医療従事者や研究者と共に依存症当事者やその家族の経験を伝え、回復の困難さとともに依存症は回復できる病であることを伝え、地域の相談支援体制の重要性への理解を促し、地域の予防教育資源である保護者・教育関係者・行政関係者・支援者・地域住民等の連携の一助になることを目指す。

## 事業の内容

### 教室開催日時・場所

- 依存症予防青森教室 8月18日(土) 青森県観光物産館アスパム
- 依存症予防京都教室 11月4日(日) 龍谷大学 深草キャンパス
- 依存症予防千葉教室 12月24日(月祝) 千葉県教育会館

参加者数 青森103名、京都84名、千葉127名 合計314名

### プログラム 13:30~16:30

- 1、薬物依存当事者の体験談—地元ダルクスタッフ
- 2、ネット・ゲーム依存当事者又は家族  
青森—ビデオ出演、京都—家族、千葉—当事者
- 3、薬物依存者家族の体験談—地元家族会
- 4、「ネット・ゲーム依存とは」  
青森—ネットリスク研究会研究員  
京都—橋元良明(東京大学情報学環教授)  
千葉—芳山隆一(アスク企画開発室長)
- 5「薬物依存とは」  
青森・京都—小林桜児(神奈川県立精神医療センター医療部長)  
千葉—成瀬暢也(埼玉精神医療センター副病院長)
- 6、上記5人によるパネルディスカッション